

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 令和 2 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	学校図書館支援事業費			
担当課係名	学習資料館・イベント交流館	業務・管理	係	作成者 松橋 幸太郎
第2次仙北市総合計画での位置づけ	施策の大綱	個性豊かな心を育むまち		
	基本計画	教育文化		
	主要施策	読書環境の充実		
予算費目	一般	会計	10款 教育費	5項 社会教育費 5目 学習資料館及びイベント交流館費
事業期間	平成 24 年度 ~ 令和 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律、学校図書館法、仙北市民読書条例、仙北市子ども読書活動推進計画			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民（児童・生徒）・図書資料
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	学校図書館が学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であることから、その整備と充実につとめる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	学校図書館支援員2名が市内小中学校を定期的に訪問し、図書の発注・書架整理等、学校図書館の環境整備作業を行い、各校の図書担当教諭の業務を補う。

【事務事業の推移】

項 目		単 位	2年度実績		
効果	活動指標	児童生徒の学校図書館利用者数	目標 人	18,444	
			実績 人	19,454	
			達成度	105.5%	
	成果指標	学校図書館が児童生徒に貸出した冊数	目標 冊	21,518	
			実績 冊	23,116	
			達成度	107.4%	
投下コスト	項 目		総事業費	2年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)			3,189	
	人 件 費 (B)		—	13,005	
	職 員 数		—	1.60	
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,128	
	(A) + (B) 投下コスト		—	16,194	
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0
		県 支 出 金			0
		地 方 債			0
		そ の 他			0
一 般 財 源			16,194		
単 位 コ ス ト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	832	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	646	

【事務事業の今までの成果】

学校図書館支援員2名が市内小中学校を月に2～3回定期的に訪問し色々な作業をすることにより、学校図書館の環境が整備され、利用する児童・生徒も増えている。また、図書委員会等の活動も活発になってきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	平成26年6月に学校図書館法が改正され、「学校司書の法制化」が実現された。しかし、学校司書の配置は努力目標であり、学校への完全配置にはまだまだ時間がかかりそうだ。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	各小中学校における学校図書館支援員の活動は非常に効果を上げており、学校関係者・児童生徒からも厚い信頼と高い評価を得ている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	学校図書館の環境整備の充実、学校図書館管理システム・横断検索システムの有効活用、学校サイドからの信頼等を踏まえ、市内全小中学校の図書館活動は確実に活性化しつつあることからこの判定とした。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	学校図書館支援員の創意工夫により、子どもたちにとって利用しやすく本を読んでみたくなるような魅力ある学校図書館の環境整備が行われているという学校からの声があった。

